

### 3 図書館協議会による図書館運営全体に対する評価(委員長とりまとめ)

協議会としては、図書館職員の日々の業務、及び、サービス向上を追求する姿勢に対して高く評価する。

平成25年度より「評価ランク名称」「目標に対する達成率」及び「内容」を変更したことは、各種の取り組みの成果をより適正に表すための対応として適切であったと考える。ただし、依然として評価が厳しいのではないか、という意見も出されている。

基礎的サービス評価の結果に関して、以下のような意見が出された。

- ・入館者数(評価B)については、県民人口の減少という状況もあることから、目標数値に対する達成率を意識しすぎる必要はないと考える。ただし、目標数値の達成に向けたプロセスが大切だとの館長の見解に賛同する。より多くの人々が来館するために、多彩な取り組みが継続して実施されることを期待する。
- ・新規登録者数(評価C)については、性別や年齢層、居住地等を分析し、新規登録が望まれる対象者を明確にした上で、最も効果的だと判断する方策を実施するとよいのではないかと考える。
- ・入館者数、新規登録者数は、県内の諸機関(学校、NPO法人等を含む)との連携や、ホールや大会議室利用と連動した事業を実施することにより、増加を見込めるのではないか。
- ・個人貸出冊数(評価A)が過去最大であったことについては、高く評価する。

さらに、今後の事業展開に関する様々な意見や要望が出されており、検討を求めたい。

- ・公開書庫に入る際に、利用カードの提示か住所の記入を求めることで、亡失等の抑止力になるのではないか。
- ・県全域における子どもの読書活動の推進に関して、もう少し積極的な取り組みがあって良いのではないか。読書をしない子ども達を対象とするばかりでなく、自ら進んで読書をする子ども達に対しても、作品を紹介するなど、読書意欲を一層高める取り組みを希望する。
- ・県内在住の若手作家を招いたイベントを開催することは、若年層が県立図書館を訪れるきっかけとして有効であると考えられる。
- ・市民協働の視点で実施する事業(ボランティアや共催事業など)を導入する必要があると考える。
- ・文書館と連携し、古文書講座等で解説した成果を図書館のホームページ等で公開して欲しい。古文書の解説に参加したいという人は必ずいると思う。
- ・上越・中越・佐渡に住む県民にとっても、(距離的には遠いが)身近に感じられる存在となるような工夫を期待する。
- ・市町村立図書館を対等のパートナーとして位置づける連携協力の考え方を原則としつつも、例えば、県内図書館における一斉イベントや、災害時の連携協力体制づくりなどを、市町村立図書館に積極的に提案してよいと思う。
- ・県内全域の図書館の質の向上を図るために、県内の図書館利用者(特に図書館協議会が設置されていない市町村の図書館利用者)に対して、図書館のあり方について学ぶ機会(研修会等)を開催して欲しい。

最後に、資料費や電気料等の値上がり、施設・設備の維持管理費の増大等、憂慮される状況のなかで、資料費の最大限の確保に努めている点を評価する。一方で、図書館としての本来の機能を十分に果たすためには、原資となる資料費・人件費等が必要不可欠であり、県当局の財政面での理解(図書館費の拡充)を求めたい。

協議会としては、次年度の図書館の取り組みを大いに期待している。